令和4年度
学校だより
2月号

さざなみ

奄美市立伊津部小学校
やるならなるでしゃんとやれ
みんな良くなれ伊津部の子

児童一人一台のタブレットＰＣのこれからについて

校長　山田　吉夫

児童一人に一台のタブレットＰＣ（奄美市ではiPad）が配布されてから，まもなく２年が過ぎようとしています。それ以前の学校のＩＣＴ環境は，新しい機器が何回も入れ替わりましたが，毎回５年も経たないうちに，一般社会のＩＣＴ環境から大きく取り残されていくのを感じました。

しかし，今回のタブレットＰＣの導入は，今までとは明らかに様子が異なっています。その理由はいくつかありますが，最も大きく教育環境を変えたのは，パソコン室に行かなくても，全員が教室で同時にパソコンを操作できるようになったことだと思います。これによって，パソコンが教科書やノートと同じようなレベルで身近な学習用具となりました。

次に，オンラインでの授業が当たり前のようにできるようになったことも大きな変化の一つです。現在，学校ではタブレットの持ち帰りについて準備を進めていますが，自宅にネットワーク環境さえあれば，顔を見ながら相談や指示ができたり，配布物や提出物のやりとりも可能となります。配布物もタブレットＰＣやスマホで確認できるため，紙などの資源の節約にも繋がります。

【ナビマに取り組む様子】

そして，奄美市でも今月から活用ができるようになったＡＩドリル（navima ナビマ）があります。単なる練習問題に取り組むだけのアプリではなく，児童一人一人の正答や誤答のデータが自動的に蓄積され，取り組むべき問題を自動で選び，個別に出題されるようなシステムです。正に，児童一人一人に応じた個別最適な学びの一つをタブレットＰＣが実現しようとしています。

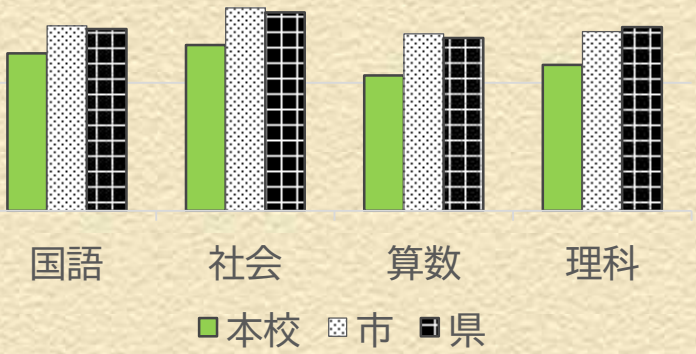
今回のタブレットＰＣの導入による教育環境の変化は，まだ始まったばかりです。今後，更なる進歩が急速に進んでいくことが予想されます。例えば外国語教育などでは，メタバース（インターネットを介して利用する仮想空間）を利用して英語でのコミュニケーションを行うなどの試みも始まっています。ようやく学校教育も一般社会のＩＣＴ環境に追いつきつつあるのかもしれません。

このような流れを止めないためにも，児童が活用できる環境を整えていくことが大切です。学校で指導する教師も新たな活用の仕方を学んでいくことが，喫緊の課題となっています。タブレットＰＣは単なる道具に過ぎませんが，今後，実生活の中で必ず利用される道具です。それをどう使えばよいのか，正しく考えられる児童を育てることが最も重要であることは言うまでもありません。今後もより一層，学校と家庭との連携を大切にしていきたいと思います。

R4鹿児島学習定着度調査結果について

1月に5年生を対象とした鹿児島学習定着度調査が行われました。結果として，今後ますます学習の工夫を図る必要性が見えてきました。

全教科における大きな課題は，「基礎・基本」の定着です。毎年ですが，問題は3・4年生で学習する内容が多く含まれます。各学年で学ぶ基礎的な内容を，学んだ学年段階において確実に定着しておく必要があります。学校では，児童一人一人に対して更にどう適切に寄り添っていくかを工夫・改善していくこととしました。



なりたい自分になるために，学力はとても重要です。学校でも改善を図るべく，様々な方策を考え，学力向上に向けて全力で取り組んで参りますので，御家庭での家庭学習の見届け，励ましにおいて，更なる御理解・御協力をよろしくお願い致します。

【五年生】さとうきび収穫

昨年三月に植えたさとうきび。
３メートルほどのりっぱなさとうきびに生長しました。

黒糖作り体験

自然の家の職員をお招きし、黒糖作りを体験しました。

絞って

煮詰めて

出来上がり

そして，4年生が種の植付を。
来年も楽しみです。

さざ波バンドコンサート

2月12日にさざ波バンドのお別れコンサートが交流センターで行われました。吹奏楽も含めてとても素敵な演奏を響かせました。団員の皆さん，そして保護者の皆様，ありがとうございました。

入学説明会

2月8日に新入学生入学説明会を行いました。子育て講座として，恵スエ子先生にも御講話いただきました。2月末現在で29名が入学予定です。